

地域ブロック：四国

ルート名称：光まわり回廊～阿南～

活動名称：「古事記古古道」を辿る一連の活動

## 1. 活動の概要

### (1) 活動内容

- ① 古事記にまつわる神社の参道の桜並木の復活と古事記古古道「大国主命生誕地祭」開催（かつての参道風景を復活させるため、蜂須賀桜を中心とした植樹を実施。また、イベントにからめて資源紹介看板の設置やマップを作成し配布）
- ② 「大国主命と素（しろ）うさぎ祭」開催（地域資源である賀立（かだち）神社の再調査を実施し、地域住民のご協力のもと、神社に由来看板を設置し、地元への情報発信を行うとともに、祭りを開催して地域活性化）
- ③ 古事記にまつわる特産品の開発（素（しろ）うさぎ饅頭や芋焼酎などの地場産品開発による風景街道活動と地域おこしの連動）

### (2) 活動による成果・効果

- ① 桜の植樹は、市民がかつての“さくら街道”の復活・再生を願うことにより、地域住民の意識が高まり、まちおこしの気運が盛り上がってきている。また、大国主命生誕地祭では、まちおこしの気運が高まった。さらに、地域資源周知マップを作成配布することにより、参加者に地域の見直しや魅力ある地域資源を周知してもらえる機会となった。



- ② 四国最東端の蒲生田岬のふもとにある賀立神社において、地域住民のご協力のもと、由来看板を設置し「大国主命と素うさぎ祭」を開催した。阿南の歴史文化の「再発見」を通じて、地域への情報発信を行うとともに、地域に「自信と誇り」を生み出し、まちおこしの気運が高まる機会となった。
- ③ 古事記にゆかりのある地域ブランド品を地域の方々と創作していくことにより、地域内外の方々に光まわり回廊協議会の活動をより広く知っていただく

ともに、地産地消による地域活性化を実現し、収益をも得ることができる。阿南の特産である竹の子を活かした「活竹弁当」は、「古事記古古道を巡る」モニターツアーや「春の足音を訪ねて撮影会」などで販売した。参加者（阿南市をはじめ県内各所）はイベントが好評であったという意見とともに、季節感のある大変おいしいお弁当であったという感想に加え、ほとんどのアンケート回答者から極めて安価であったという回答が得られており、地産地消の効果が証明された。

### (3) 活動のきっかけ、目的・目標

- ・ 阿波には、古事記の神話にまつわる由緒ある神社や史跡が数多く残っているにもかかわらず、それらが教えられず伝えられなかったために忘れ去られている。このため、阿南光まわり協議会の構成団体のひとつである「阿波古事記研究会」は、これまで古事記研究を進めてきた結果、古事記に書かれる物語は、阿波で繰り広げられた物語であった事、すなわち古事記の舞台がこの阿波の地であったと考えることができることを、現在に残る事実と記録をつなぎ合わせる活動として実践してきた。これが、徳島県内の由緒ある神社等に看板を設置するなどのイベントや情報発信などを主体とした活動に結びつき、現在では古事記にまつわる地産地消の特産品販売にまで結びつき、これが様々なイベントで好評を得ている。
- ・ 今後も看板等を立て、情報発信を継続していくとともに、桜並木の整備を含めた四国遍路を含む古事記古古道の整備を進めていくものとしている。

## 2. 取り組み内容

### (1) 活動を行うに当たっての主な課題

#### ①古事記にまつわる神社の参道の桜並木の復活（植樹）と古事記古古道「大国主命生誕地祭開催」

- ・ 参道の所有者は神社とその氏子であり、地域の方々を含めたこれらの関係者すべてに活動の理解を得て実施した。
- ・ 桜の植樹については、風景街道の補助金を活用した。チラシの印刷については（社）四国建設弘済会からの助成を受けた。看板の制作費は前記の阿波古事記研究会が自費で出費した。
- ・ その他行政機関からの助成や協力はない。
- ・ このイベントの実施にあたり、事務局約10名が2ヶ月間程度の準備を行った。
- ・ 維持管理については未決定のため今後の課題である。

#### ②古事記古古道「大国主命と素（しろ）うさぎ祭」開催

- ・ 神社の宮司および氏子に理解を得て実施した。特に看板設置の位置やデザ

インについては、宮司および氏子への確認を行って合意をえたうえで設置した。また、看板設置作業は神社の氏子10～20名程度で実施した。それを受けて阿南光まわり協議会が式典を実施した。

- ・ 設置した看板の支柱は電柱の再利用とするなど費用軽減に努めた。盤面の費用およびこれを紹介する冊子の費用は阿波古事記研究会の自己負担でまかになった。
- ・ このイベントの実施にあたり、事務局約10名が3ヶ月間程度の準備を行った。
- ・ 維持管理については未決定のため、今後の課題である。

### ③古事記にまつわる特産品の開発

- ・ お饅頭や焼酎は、阿南光まわり協議会が原案を提示し、それに基づき作成されたものであるが、各会社が販売しており、数量が限定されていることもあり、風景街道の活動への収益には現時点で結びついていない。
- ・ このため、阿南光まわり協議会の実施するイベント時にこれらの特産品を提供している現在の状況から、今後日常的な販売へと拡大していくことが課題であり、そのためには、阿南光まわり協議会と阿波古事記研究会の活動を有名にして、地域に浸透していくようにしなければならないと考えている。
- ・ また、活竹（かっちく）料理、活竹弁当についても協議会の提案を受けてNPOが開発したものであるが、協議会のイベント時に協議会からNPOに注文するもので、収益はすべてNPOにもたらされる。これについては、このNPO団体が現在パートナーシップの構成団体となっていないことから、今後構成団体となるよう呼びかけている状況である。さらに、活竹料理、活竹弁当は地産地消という大きなメリットはあるものの古事記との関わりが無いことから、現在、古事記との関わりを持たせ、古代米やうさぎのかたちをモチーフにした「御祓弁当」の提案を協議会からNPOに対して行っている状況である。今後、古事記を巡るツアー等に利用する予定である。

## (2) 具体的取り組み内容

### ①古事記にまつわる神社の参道の桜並木の復活（平成19年～）と古事記古古道「大國主命生誕地祭開催」

- ・ 当初は平成20年2月17日（日）に「風景街道登録記念」として徳島で名高い蜂須賀桜をメンバーで植樹したもの。当時の参加者は6名であった。

これは、延喜式内社であり、古事記ゆかりの地として広く崇敬された八杵（やほこ）神社参道が、かつて桜並木があり、憩いの場所であったことによる。
- ・ 同3月23日（日）には、「復活！“さくら街道”植樹祭」として、広く一般に呼びかけ、参加者に地域の見直しや魅力の再発見の機会を提供し、協議会の主旨活動を広報し、地域の活動推進サポーターを広げるため実施したものであり、60名の参加をもって、50本の蜂須賀桜等を植樹した。

- さらに平成21年3月29日(日)には、約200名の参加を得て、「続・復活！ “さくら街道” 植樹祭」及び古事記古古道「大国主命生誕地祭」を開催し、昨年に引き続き“さくら街道”復活のため、植樹祭を開催した。今回は約10本の桜を植樹した。また、「八杵神社」にお祀りされている「大己貴神(おこなむちのかみ)」は、「古事記」に記される「大国主命」の別名であるとし、地域住民のご理解・ご協力のもと、由来看板を設置して「大国主命生誕地祭」を開催。参加者に地域の見直しや魅力の再発見となる資料として、「古代ロマンと花めぐり in 阿南」マップを作成配布して、地域資源をPRした。



「さくら街道」植樹祭」チラシ



「大国主命生誕地祭」チラシ



記念冊子



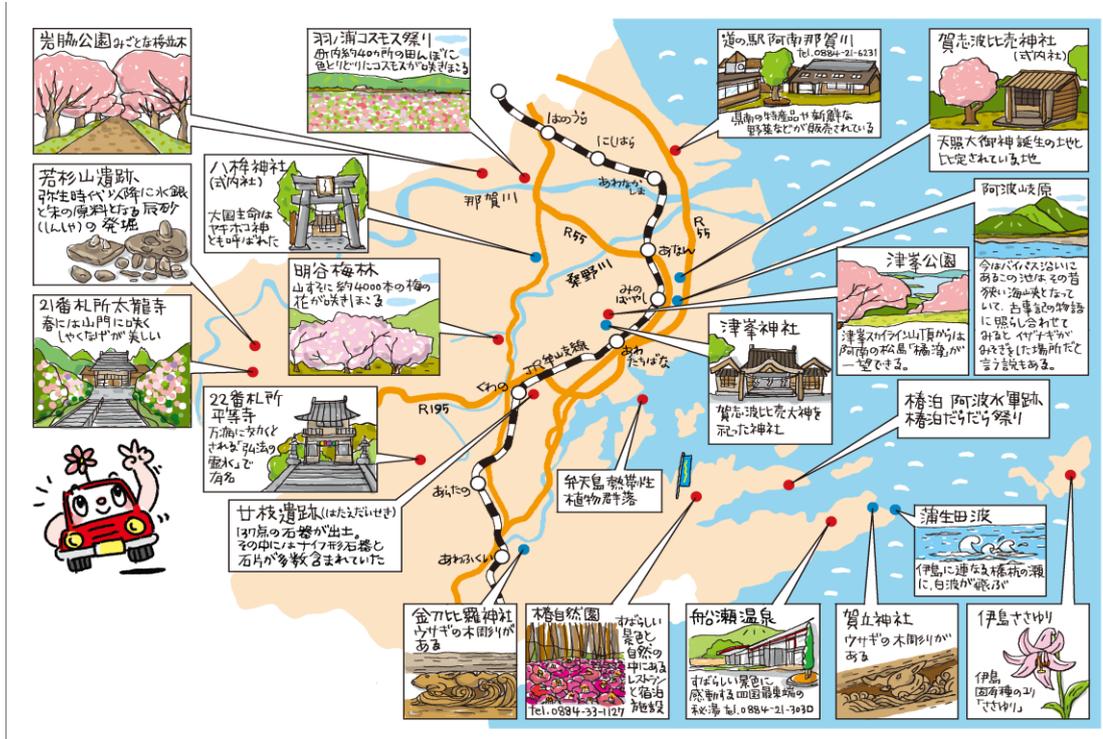
「大国主命の生誕地」看板設置



「主(おさ) 饅頭」



「古代ロマンと花めぐり」マップ



「古代ロマンと花めぐり」マップ

## ②古事記古古道「大国主命と素（しろ）うさぎ祭」開催

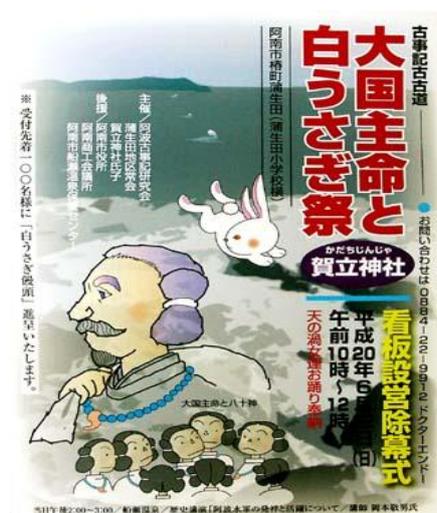
- 「古事記」を読み解くと、「稲羽の素うさぎ」の舞台は阿南市椿町蒲生田であると  
し、平成20年6月30日（日）に、ふもとの賀立神社にて、地域住民のご協力の  
もと、由来看板を設置し「大国主命と素うさぎ祭」を開催した。



素うさぎ由来の看板の序幕式



「大国主命と素うさぎ祭」の様



配布チラシ



記念冊子



素うさぎの由来看板

### ③古事記にまつわる特産品の開発

光まわり回廊～阿南～においては、阿南市および周辺の地産地消を推進しており、様々な取り組みを行っている。その取り組みと風景街道の活動を連動させ、主題のひとつである古事記をテーマとした特産品の開発や周辺で採れた食材を活用した料理や弁当を風景街道の活動時に安価に提供するなどして、PRならびに収益に結びつけようとしている。



古事記ゆかりの素うさぎ饅頭



地産地消の活竹弁当



古事記ゆかりの「呂智（おろち）」芋焼酎

## 4. 問い合わせ先

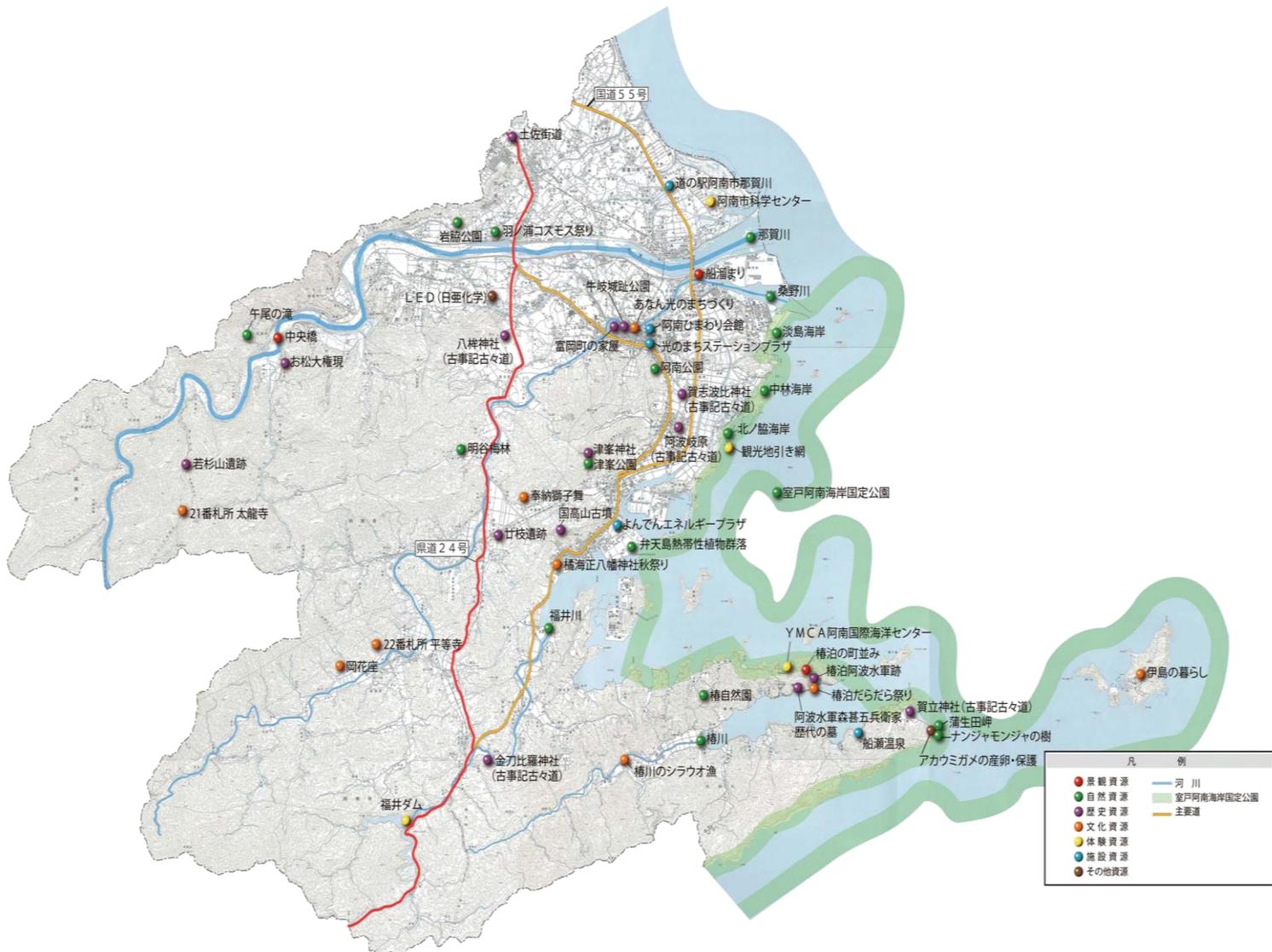
所属団体：阿南<sup>ひ</sup>光まわり協議会

担当者名：事務局 岡澤みどり

電話番号：0884-22-2301（阿南商工会議所）

メールアドレス：anancei@anancei.or.jp

関連HP：なし



光まわり回廊～阿南～ 地域資源図